

浜松市議会議員



田口 章

後援会
だより

お気軽にどうぞ
昼 053 - 447 - 3820
夜 053 - 440 - 7100

創ろう！元気な浜松

平成 19 年 12 月

【行財政改革の課題】

「補助金」について考える

第二次行革審では「補助金」「外郭団体」「組織運営」の3分科会による行財政改革の検討が進んでいます。今月はその中から「補助金」について考えてみます。

浜松市の「補助金」、平成 19 年度予算では、461 件 159 億円の補助金が予算化されています。

現在、行革審では、「ゼロベースで再評価する」「同種の制度については統一する」「情報公開と事後評価を徹底する」「補助金の性格ごとに整理する」「スクラップ&ビルドする」などの考え方で、ムダを無くし、効果的に補助金が使われるよう議論を進めています。

分析にあたり行革審では今年度の補助金を右表のように分類しています。

区分	件数	金額(億円)	内容
事業費補助	308	50.4	ソフト事業の奨励・援助
団体運営費補助	55	10.8	団体等の運営支援
イベント等補助	20	0.9	団体等のイベント補助
利子補給	26	1.1	団体等の借入金利子補助
投資的補助	44	88.9	公的施設の建設整備補助
扶助費	5	6.6	私立保育園等への補助
企業会計・特別会計補助	3	0.4	
合計	461	159.1	

(行革審資料より)

12/2 の行革審公開審議会でも興味深い議論が行われると思います。詳しくは行革審の HP をごらんいただきたいと思います。

(行革審のHPはこちら <http://www.h-gyokaku.jp/>)

なお、11/30 の浜松市議会の代表質問では、我が会派「市民クラブ」の樋詰議員から「補助金」に関する考え方を質しました。

市長は答弁の中で、「公平性、効率性、市民の目線で改革する」「情報公開と事後評価を進め、リスト化し公開したい」「第三者評価も行う」など、補助金改革に強い意欲を示しました。

ところでみなさんは、「補助金」の具体的な内容をご存知でしょうか？

浜松市では主な「補助金」について、市の HP に補助金要綱を掲載し、情報を公開しています。

(<http://www3.city.hamamatsu.shizuoka.jp/reiki/reiki.html>)

中味を見るのは大変ですが、たとえば「こども家庭部」のところを見ると、子育てに関する補助金や子育て施策の運用についての概要を知ることができます。

また「区役所・地域自治センター」というところを見ると、合併する前の旧市町村の時代から続いている補助金制度が掲載されています。

お時間のあるときにでもごらんいただければと思います。

議会も予算や決算審議の中で補助金が無効に使用されているかどうか、しっかりチェックしていかなければならないと思います。10 月末の決算審査特別委員会では、平成 18 年度の補助金交付資料が配布されました。

資料には、補助金名称と交付団体、金額しか載っていないので、事業の詳しい内容や評価はまったくわかりません。

私はこの資料を初めて見ましたので、金額の大きなもの、特徴的だな...と感じたものを次ページに記しておきます。

この他にも、少額ではあっても首をかしげるようなものから、NPO 団体への助成など「市民協働」というならもっと増やしてもイのにと思えるようなもの、などなど本当に多くの種類の補助金がありますが、時代の変化とともに変わるべきものもあるのではないかと思います。

やはり「事業評価」が重要ですね。引き続き、さらに調査したいと思います。

なお、この資料、興味のある方はお見せしますので、ご一報ください。

補助金のうち規模の大きなモノ(H18年度)

天竜浜名湖鉄道経営助成基金補助金	1.4 億円
小規模授産所の運営費補助	2.1 億円
社会福祉施設整備費補助	8.1 億円
老人福祉施設整備費補助	9.1 億円
経費老人ホーム事務費補助	3.3 億円
放課後児童会補助金	0.9 億円
私立幼稚園就園奨励金	6.3 億円
民間保育所等補助金(各種制度アリ)	10.5 億円
認証保育所運営費等補助金	0.9 億円
民間保育所施設整備補助金	4.6 億円
土地改良事業補助金	7.4 億円
基幹農道整備事業補助金	2.5 億円
市街地再開発事業費等補助金	14.2 億円
土地区画整理事業補助金	3.0 億円

外国人集住都市会議 みのかも 2007 参加レポート

11月28日(水)、岐阜県美濃加茂市で「外国人集住都市会議 みのかも 2007」が開催されました。全国23の都市から集まった参加者は約600人。浜松からは山崎副市長以下、担当部門や市議会議員4人が参加しました。

外国人集住都市会議は、2001年、浜松市での開催からスタートしました。会員都市は当初の13都市から、この6年で23市町に拡大しています。現在、日本には208万人の外国人が住んでいます。日系ブラジル人を中心に定住化が進む中、言葉の問題をはじめ、地域コミュニティのあり方、社会保険制度、子女教育など、これまでの制度では対応できない課題が増えています。この会議は、こうした課題の最前線に立つ市町が集まって情報を交換し、国への要望などを行っているものです。

共生社会づくりには「言葉」「心」「制度」の3つの壁があると言われますが、ある市長は「4つ目の壁は省庁だ」と指摘していました。国の対応については、私も9月議会で取り上げました。やすとも市長は答弁の中で“外国人庁”のような組織が必要であり、設置を働きかけたいと言っていました。まさにそうした組織横断型の国の体制、あるいは担当大臣の設置が必要ではないか、と感じました。

< 主なテーマの特徴点、所感 >

在住管理について

- ・「外国人住民基本台帳」の作成が急務となっています。
- ・これを整備することによって、社会保険の加入促進や児童の就学管理(転校も含めて)もできるようになります。
- ・これは地域コミュニティづくりの基盤ですが、一地方自治体だけではできないため、国としての早急な対応が求められています。
- ・H21年度に外国人の在留管理制度の見直しが行われますが、それに合わせて実現できるように、さらなる働きかけが必要です。

企業の社会的責任の拡大

- ・外国人労働者を雇用している企業の社会的責任を求める声が増えています。
- ・たとえば、社内における日本語教育や社会保険の加入などが期待されています。
- ・企業独自でできない場合は、商工会議所や国際交流協会などの連携も視野に入れてほしいとの声もありました。
- ・企業としては「納税で義務を果たしている」といいたいところですが、今後も外国人の労働力に依存せざるを得ない中、共生社会の一員としての役割を検討する必要がありそうです。

教育体制づくり

- ・大人を含めた日本語教育をはじめ、児童生徒へは“学習言語”としての日本語教育が求められています。
- ・高校進学率の向上や高等教育を受けるための進路指導も必要となっています。
- ・集住都市では、教師の加配やバイリンガル教師の育成、支援員の整備が急務となっています(右図参照)。
- ・今の外国人児童が、10年後にそうした力を身につけられるような教育が必要ではないでしょうか。

	生徒数 (小中計)	支援状況(人)		
		加配教員	職員	支援員
浜松市	1582	35	4	25
太田市	453	25	20	0
大泉町	350	10	9	0
豊橋市	1147	42	17	9
豊田市	648	22	39	1

* 同等制度の各市町調査より、群馬県と愛知県から抜粋。
(浜松は支援員を「職員欄」、サポーターを「支援員欄」に記載してある)
(なお資料では、浜松市の支援員は22人とあったが、現在25人いる)

住民協働による行財政改革(矢祭町視察報告)

11/14(水)かねてから行きたかった、福島県矢祭町を視察しました。矢祭町は、平成13年10月「合併をしない町宣言」を行い、平成18年度に「自治基本条例」を策定、「法令を以って命令されない限り合併をしない」ことを決め、数々の自立計画を実施しています。

そのため徹底的な行財政改革を行い、限られた財源で最大の住民サービスを行い、さらに財源確保と地域活性化のために「企業誘致」を行いました。

現在は「元気なこどもの声が聞こえるまちづくり」をめざし、子育て支援策を充実させており、出生率は1.94に上昇しています。

以下に、矢祭町の取り組みをいくつかご紹介します。

人件費削減

最初に取り組んだのが“人件費削減”。

かつて100人以上いた町職員は、定年退職者不補充により、現在70人まで削減(うち一般行政職は50人、のこりは保育士など)。さらに「50人以下になるまで補充しない」と町長は言い切る。そして重ねて、「現状でも、民間企業なら一人でやれる仕事を1.5人かけてやっている」と人員削減の手を緩めない。嘱託職員も34人を1人にまで削減した(今後廃止予定)。

自らも律し、特別職(町長・助役・教育長)の報酬は、総務課長と同額(月53.3万円)に減額。また職員の特殊勤務手当も2種類のみ残し廃止。議会も平成16年の改選に合わせ、定数を18人から10人に減らしている。

住民サービスの向上

役場の窓口業務は365日、平日は朝7時30分～18時45分、土日祝日は8時30分～17時30分までとなっている。(私も実際に7:30に行ってみたら職員が2人いた)。

職員の自宅を窓口がわりに「出張役場」として開放、遠距離や山間地の高齢者サービスなどに有効とのこと。

また町では、行革で得た財源により、国保・介護保険料や水道料金などの公共料金を他の町村よりも低く設定し、住民負担を少なくするとともに、子育て支援策も充実させている。

もったいない図書館

従来、町には小さな図書施設はあったが、「充実した図書館がほしい」との住民要望が強かったという。

しかし、小さな町に図書館建設の財源はなく、町と町民が知恵を絞ったのが、町施設(柔剣道場)を改装して図書館をつくり(施設整備費1.1億円)、本は「家の中で眠っている本を集めよう」というものであった。



<もったいない図書館の内部>

多数の寄贈に、追加で「開架書庫」「閉架書庫」の蔵書設備を造ることになったという。

集まった本の分類分け、背表紙のラベリングやPCでのデータ管理などは、すべて町民ボランティアの手で行われた。現在の図書館運営は、約20人の有償ボランティアがシフトを組んで4人程度常駐している(時給500円とのこと)。

ボランティアの方が館内を案内してくれたが、「多くの支援者への感謝」「町民の誇り」がよく伝わってきた。おカネをかけるだけが住民サービスではない。

「もったいない図書館」は住民協働の象徴といえる。

アイデア発案の中心となったのは、当時の自立課長(現教育長)ということだったが、これに「まちづくり委員会」のメンバーが呼応し、マスコミで取り上げられたこともあり、取り組みが瞬く間に全国に広がり、最終的に43万5千冊の本が寄せられた(現在は受け入れていない)。



<矢祭町役場…古い、これが町の象徴ということ>

まちづくり委員会

まちづくり委員会は、矢祭町の官民共働を語る上で欠かせない組織。総合計画の策定の他、月に1度程度会合を開き、行政だけに頼らない、町民の自主的な活動を推進している。また政策提言も行ってあり、後述の「子育て支援策」もこの提言をもとに実施したとのこと。

子育てサポート日本一目指して

矢祭町の出生率は1.94。人口7000人規模の山村としては非常に高い数値となっている。これを支えるのが町の政策。主な施策は下記のとおり。

・第3子以降の赤ちゃん祝い金・健全育成奨励金

第3子100万円、第4子150万円、第5子以上200万円

・保育料(H18年度から半額に)

3歳未満児...11,950円

3歳児...9,050円/月額

・幼稚園授業料...4,000円/月額

・給食費

幼稚園・小学校...150円/1食あたり

中学校...200円/同

・妊産婦検診費用助成

自己負担を上限3000円とし、13回まで助成。

商店会「スタンプ券」の活用による町の活性化

商店会の活性化として「スタンプ券」の活用もはじめた。まず取り組んだのは、「スタンプ券」で公共料金の支払いを可能にしたこと。

そんなことができるのか?・・・と思ったが、種明かしは簡単。町民がスタンプ券を役場に持参したときに、町職員が商工会に行き(徒歩1~2分)現金化するだけのこと。行政がどこまで住民や商工会に協力するかである。

このアイデアは、約10年前にも提案されたが、当時は「前例がない」のひとことで実現しなかったということだった。

さらに商店会活性化のために、町職員の期末手当の5%以内を「商品券」で支払うとか、区長(自治会長)や消防団への報酬の一部、敬老祝い金を「商品券」での支給にした。

現在、商工会発行の「スタンプ券」「商品券」は1600万円程度の規模になっており、元気な商店会づくりの一助になっているというが、そのうち80~100万円が公金支払いや納税に使われているということだった。

第二役場

町役場では退職者の不補充で50人まで減らすとしているが、その一方で、行政サービスの低下を招かないように「第二役場」の組織化を検討中。

これは役場退職者の有志をNPO法人化し、役場業務の中で委託可能な業務を、有償でやってもらおうというもの。来年度からスタート予定で、現在、委託業務の洗い出しなど準備作業を行っているとのこと。町民協働の一施策として、今後の動きを注目したい。

【最近のブログから】 11/24「三遠南信ひとつ走り」

「ウダウダしてても風邪は治らないんだから、ビシッとしなさい、ビシッと！」

今日は仕事も入ってないし、ちょっと風邪がみだし、家でゴロゴロしてようかなあ～と思っていたのですが、朝から女房にハッパをかけられてしまったので、んじゃ、紅葉でも楽しむか・・・と「イナズマ号」でフラリと南信濃方面へ行くことにしました。

さすがにちょっと寒かったのですが、23年前に買った“クシタニ”の革パンと、20年前に買った革ジャンをまとい、気分は20代・・・(おなかのあたりが窮屈でしたが・・・^^;)。

まずはヒョー越峠へ。

11時頃通ったのですがまだ氷が張ってました。

峠で一休みしていたら、「飯田から浜松の中心街へ買い物に行く」というご夫婦に会いました。

浜松の集客力にあらためてビックリ。

三遠南信道については、いろんな思惑があるようですが、必要としている人はいるんですね・・・。“飯田から”とおっしゃっていましたが、飯田だと名古屋に出られますから、旧南信濃村の人だったのかな～。

峠を下った後は、平岡ダム湖の紅葉を楽しみながら、一応、今日の目的地「下條村」へ。

下條村は飯田市の南隣にある人口4000人ほどの小さな村ですが、独自の生き残り策で子育て世代を大切に、今や出生率2.1を超える、キラリと輝く小さな村です。

写真は「あしたむらんど下條」という名前の図書館・・・

・・・この続きは、ブログでお楽しみください！

田口のブログ《創ろう！元気な浜松》

http://taguchi-hamamatsu.cocolog-nifty.com/blog/2007/11/post_e961.html

【編集後記】

今年も浜松の中心街では「冬の蛍フェスタ」が開催されています。

浜松の中心市街地活性化については、さまざまなご意見や期待の声がありますが、3年後に予定される大丸の出店を待つだけでなく、事業者のみなさんや市民みんなの「元気な浜松を創ろう」という気持ちが大切です。

1月半ばまでイルミネーションの点灯は続きます。

「青と白ばかりで冷たい感じがする」との声にこたえて、今年は暖色のイルミネーションも

用意しました。みなさんも“冬の蛍”を楽しんで、浜松の街の魅力を再発見してくださいね。

11月の主な活動

- 01(木) はままつの教育を語る会
- 03(土) 入野老人クラブ連合会体育祭
活動報告(ベルソニカ労組)
浜松中央卸売市場まつり
- 04(日) 入野地区町民体育祭
西区ふれあい広場
- 06(火) 外部研修会(NPMセミナー)
- 07(水) 浜松市社会福祉大会
民主党静岡8区「初陣の会」
- 08(木) 環境経済委員会
入野地区自治会長会議
- 09(金) 入野小学習発表会
- 10(土) 活動報告(エステック労組)
ナイスハートふれあいのスポーツ広場
浜名部品工業労組研修会
行革審傍聴
- 11(日) 入野地区社協福祉まつり
スズキ労連政策制度研修会
- 12(月) 活動報告(浜松日産労組)
スズキ定年退職者懇談会
活動報告(スズキ販売)浜松支部)
- 13(火) 全員協議会
- 14(水) 視察(福島県矢祭町)
- 15(木) 部門レクチャー(市教委)
活動報告(スズキ高塚)
教職員組合西区協議会
- 16(金) 新人議員研修会(オートレース)
活動報告(スズキ高塚)
連合浜松大会
- 17(土) 西都台小学校学習発表会
本田技研労組OB会
- 19(月) 活動報告(スズキ高塚)
- 20(火) 本会議
- 21(水) 活動報告(スズキ高塚)
- 22(木) 市内視察(外国人教育)
活動報告(スズキ高塚)
- 24(土) 長野県下條村訪問
- 25(日) 遠州将棋まつり
スズキ労組支部委員研修会
浜松西政経フォーラム研修会
- 26(月) 連合浜松との意見交換会
大都市制度調査特別委員会
- 27(火) 活動報告(アスモ労組)
活動報告(スズキ高塚)
- 28(水) 外国人集住都市会議
- 29(木) 部門レクチャー(都市計画課)
活動報告(スズキ高塚)
- 30(金) 全員協議会・本会議

12月の主な予定

- 01(土) 暴力追放...市民会議
- 02(日) 西区第一方面隊訓練
行革審傍聴
- 03(月) 本会議
- 04(火) 本会議
- 05(水) 環境経済委員会
- 07(金) 「森の力再生事業」視察会
- 08(土) 入野地区自治会長会議
- 09(日) 入野公民館まつり
- 14(金) 全員協議会・本会議
- 16(日) 自主防災訓練
- 20(木) 行政視察
- 21(金) 行政視察